



iSFL JOURNAL

共生と共創から
うまれてくること

VOL.11
2025.5

FEATURES

02 特集
共生と共創からうまれてくること03 「FOLKWOOD VILLAGE 八ヶ岳」が描く、
共生と共存のアウトドア空間

REGULARS

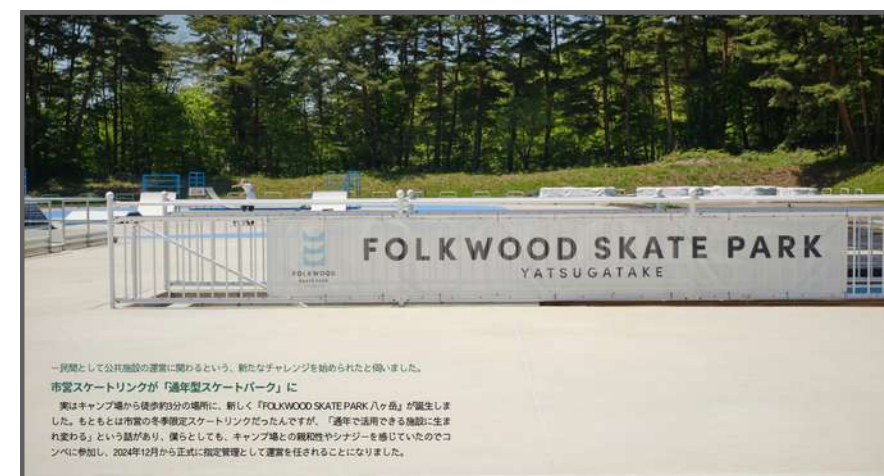
19 JOICFP NOW

20 ゆるっと地球会議 | iSFL Next Event

21 気分と世代のひとやすみ観察記 | ななめ45度から見つける共創のたね

22 だからわかりあえなかった | RECOMMENDED

23 NEXT ISSUE | ヘンシュウコウキ





あらためてAIに意味を聞いてみたら、「異なるものが共に存在する」のが共生で、「協力して新しいものを創り出す」のが共創とのこと。読んで字のごとく回答ではありますが、言うは易し、行うは難しのテーマだと日々の業務でも痛感しています。今回はISFLの記念すべき第1回目のフィールドワークでお邪魔したFOLKWOOD VILLAGE 八ヶ岳を再訪し、あれから2年の様々な取り組みのお話を伺いました。新緑が気持ちいい森の写真で深呼吸しながら、このテーマについて考えてみようと思います。

共生と共創からうまれてくること

気分と世代の ひとやすみ観察記

第2回： 豊かで実りある共生って？



の自然な振る舞いによるマナーの学びの場とでも言いましょうか。我が家然としつつ互いを尊重しながら程よい距離感で接している様に惹かれてしまったのがきっかけでした。あの空気感はどういうにして生まれるものなのか？それ以来の銭湯観察視点です。がしかし、すべての銭湯がそのような空気感を纏っているわけではありません。「ちょいとピリピリしてやしませんか？」と問いかけたくなるような、ヒエラルキーある関係性が一見さんの私にもはっきりと分かる...リラックスとは対極にある緊張感を味わったこともありました。

話は変わりますが、3年前、アフターコロナムードが高まる中で「2025年にあったら良いなと思うモノ・コト・サービス」を聴取したところ、「コロナを経てご近所の助け合い願望が出てきました。ご近所で助け合うとお得になるサービスがあるとうれしい」と20代後半女性から。ご近所であってもお得なサービスがないと助け合えないのかと寂しく感じると同時に、それほどまでに関係がつくりづらい環境にあることを思い知らされた瞬間でした。

今、単身世帯の多いシニア層の住み開きや、核家族化などによる孤独・孤立が問題視されている子育て世帯に向け設計された集合住宅などが注目されていますが、関わりを望んでいても自然派生では難しい、何かしらの枠組みやアシストが必要になっているのが現代なのかもしれません。

小原 直花 おはら・なおか / 伊藤忠ファッションシステム ifs未来研究所 上席研究員。時代のムードを映し出す「生活者の気分」と価値観の変化をいち早く体現する「世代」を研究テーマに未来の方向性を捉えます。

今号の特集テーマ「共生・共創」と聞いて不意に頭を過ったのは...「銭湯」でした。私は時々無性に大きな湯舟に浸りたくなる質でして、国内で旅をする際は銭湯にお世話になることが多々あります。その始まりは25年ほど前の京都。4人部屋でお風呂の順番が待てず銭湯に行くため近所を散策中、偶然にも銭湯帰りのご婦人に出くわし（なぜ分かったか...頭にバスタオルを巻いていらしたから...です）、オススメされたのは近くの銭湯ではなくちょっと足を延ばした先にあるそのご婦人の行きつけの銭湯でした。そこは老若女性たちの井戸端会議と、大人



グリーンフューチャー プロジェクト

サステナビリティの取り組みを通じて
企業価値向上に貢献する支援サービス

Green Future Project (以下、GFP)は、
企業の気候変動対策への投資を一貫して支援する
Sustainability as a Serviceを提供しています。

こんなお悩みはありませんか？

- 企業としてサステナビリティについての活動を進めているものの、効果的な発信ができていない。
- サステナビリティの活動で、自社顧客のロイヤリティをアップしたい。
- カーボンクレジットニュートラルに向けて、効果的なソリューションを知りたい／取り組みをしたい。

マーケティングツールとして、これらの解決に活用いただけます。
詳しくは[こちら](#)から

伊藤忠ファッションシステム株式会社

NEXT ISSUE

VOL.12

2025年7月発刊予定

早いものでiSFLが始まってから丸2年が経ちました。これもひとえに会員みなさまのおかげです。そんな感謝の気持ちを込めて次号は「**会員様大集合**」をお届けします。スタンダード・ライト会員のみなさまの交流や共創のきっかけをジャーナルでも作れたらと思っています。この機会に改めて会員様とお会いできるのも楽しみな編集部です。



ヘンシュウコウキ

宮林さんがカメラマンさんと撮影してきた写真の圧倒的・緑を見て、癒されながら編集した本号。年々、自然の中で過ごす大切さを痛感しています。今年は7月に尾瀬に行く予定。山小屋の生ビールと、湧き水で割るウイスキーが格別で、お酒を飲むためにハイキングしています。楽しみです。(大表)

「キャンプブームも終焉か」といった記事を目にすることが増えてきました。私自身、一時はキャンプに飽きを感じたこともあります。しかし、FOLKWOOD VILLAGE 八ヶ岳(以下、FWV)にはサウナやランニングを通じて、環境に配慮したスマートなアウトドアを楽しめる魅力があります。FWVの「共生と共存」、iSFLの「共創」という理念が出会ったことが、iSFLの原点であり、これからの未来につながる力だと改めて実感しています。(宮林)

iSFL JOURNAL

VOL.11 2025.5

企画・編集

伊藤忠ファッションシステム株式会社
107-0061 東京都港区北青山2-5-1 伊藤忠ビル17階
tel : 03-3497-4000
fax : 03-3497-4555
<https://www.ifs.co.jp/>

発行人

駒谷 隆明

編集人

宮林 誠之

写真(表紙、特集ページ)

打越 誠 (Wonderstock Photo)

編集スタッフ

大表 桂子・山下 徹也・小原 直花・中村 ゆい